

ポスター審査を終えて

鹿沼市立池ノ森小学校長 島 一嘉

はるか昔、人間は森に住み、森の恵みによって生かされていました。のちに森を離れてからも、人間は森という故郷に「楽園」の思い出を重ね、懐かしいといった想いを抱いてきました。今回の応募作品に人と動物が森の中で幸せに暮らすといった世界を表現したものがたくさんあるのも、そういった気持ちの影響があるのかもしれません。もちろん、現在も森は生物の多様性の保持、水資源の確保、土砂災害の防止、食料や資材の確保、という役目を果たす我々には欠かせないものです。

また、表現しようとしているテーマも、森とのふれあい、育樹、森林保全、環境問題などいろいろな作品があり、審査を楽しませていただきました。入賞した小学生の作品は、自然保護をテーマにした楽しく愛らしいもので、独自の表現が強く心に残りました。中学生、高校生の作品は、世界に視野を広げ森林愛護に留まらず「自分たちは何をすべきか」といったメッセージが組み込まれた深い作品になっていたと思います。絵画表現の技術に目を見張るものもありましたが、緑化や森林愛護といった視点から眺めると、表現が多少稚拙であってもテーマや内容、添えられた文字にも作者の制作意図や思いが感じられ強く惹かれる作品が、審査員の心を捉えたようです。

面積の 7 割を森林が占める鹿沼市に住むわたしたちにとって、森は重要な資源であるとともに、守護者であり、楽園です。これからも大切に守られることを願います。

